

第二十二回企業活性化研究分科会・議事録

<第二十二回 2009年7月18日(土) 時間:13:30~14:30 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:山本、井端、大野、木村、古山、渡邊、横山、星野、菅原、齋藤、酒井、杉本、高市

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ①:『*継続企業の前提に関する分析 (TYPE II)*』

- ・報告者:齋藤幸雄(専修大学大学院)
- ・配布資料:9枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、日本金属工業株式会社の継続企業の前提について分析したものである。同社の継続企業の前提の注記は、平成13年度から平成15年度において注記が付されていなかった。TYPE II error に分類された理由について、収益性分析及び資金分析を行い検討している。分析結果から大きく分けて①生産設備の効率化と事業集約による収益性の改善、②借入返済による財務体質の強化という二つの施策を行った。両施策の成果が十分に上がったと判断され、注記が付されなかったと考察した。

- ・報告者:古山徹(日経メディアマーケティング株式会社)
- ・配布資料:18枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、戸田建設の継続企業の前提について分析したものである。同社が継続企業の前提についての注記が付されずに、TYPE II error に分類された理由を収益性分析及び支払能力から分析した。また、上場会社における同注記が付される理由・状況と戸田建設と競合他社との比較を行い、同社の状況を総合的に分析した。分析結果から2003年3月期には、同注記が付されてもおかしくないと判断できる。一方、営業活動からのキャッシュ・フローもプラスの状態であり、資本、資金面で不安を抱えているわけではないと判断でき、注記が付されなかったと考察した。

テーマ②:『*上場企業の「継続企業の前提に関する注記」状況調査*』

- ・報告者:高市幸男(東京商工リサーチ)
- ・配布資料:4枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、継続企業の前提に関する注記が改正され、新しい開示ルールで初めて迎えた上場企業の2009年3月期決算における注記についての状況調査をまとめたものである。新たな注記基準の下での開示状況の変化、企業倒産と注記状況の関係、企業に対する評判など、企業内外の情報から同注記の役割と今後のあり方について総合的に検討を行った。

4. その他

次回以後の日程

- ・9月26日（土）専修大学（神田校舎）
- ・10月17日（土）専修大学（神田校舎）

（文責：齋藤幸雄）